

# 世界経済の見通し： アジアの躍進と欧米の正常化

RSM US Newsletter Vol.2

経済学：実体経済

2024/1/9

翻訳：RSM 清和監査法人

## I. キーポイント

- 2024年、注目のシナリオは金利のピークとその後の引き下げ
- 欧米では経済活動が持続可能な水準に回帰
- アジアではインドが世界経済の成長の中心に浮上

新型コロナウイルスのパンデミック時代の不安定さが和らぎ、国際貿易に新たな展望が生まれつつある今、世界の成長は新たな局面を迎えつつある。

2024年の世界的な経済・政策シナリオは、世界の主要中央銀行による政策金利のピークとそれに続く引き下げが重要なテーマとなることが予想される。

しかし、このシナリオには2つの流れがある。欧米では、金利上昇によってインフレが抑制され、パンデミック時代の財政プログラムによって拍車がかかった猛烈な成長が鈍化するにつれ、経済活動が持続可能な水準に戻りつつある。この動きは2024年の利下げに向けた下地となる。

一方、アジアでは状況が異なる。中国は債務の抑制に苦慮し、経済の市場統制に悪戦苦闘している。中国はもはや世界成長の中心ではなくなった。主導権は今やインドに移っている。

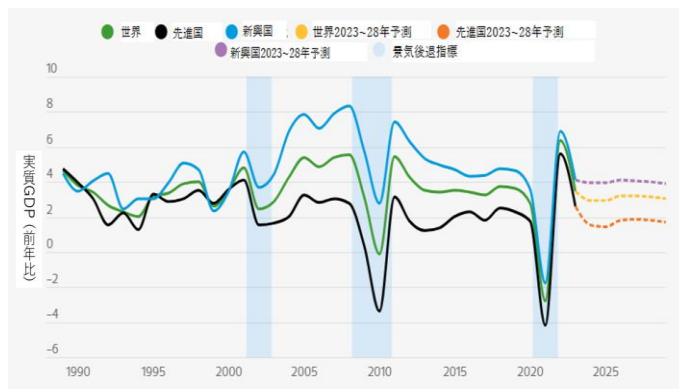
インドの台頭は、近年の国際貿易基盤の変化に起因しているが、テクノロジー分野の成長に効果的な同国の経済改革や経済政策も推進力となっている。

こうしたシフトは、中央銀行の政策金利決定、一人当たり所得、世界貿易、インフレ、労働力動態など、世界経済見通しのあらゆる側面に影響を及ぼしている。

## II. 東南アジアへのシフト

国際通貨基金（IMF）は現在、新興国の国内総生産（GDP）が今後5年間で年率4%に減速すると予想しており、東南アジアがその先頭を走っている。これは、先進国のGDP成長率1.7%の2倍以上である。

### (1) 世界、先進国、新興国の実質GDP成長率と2023~28年のIMF予測

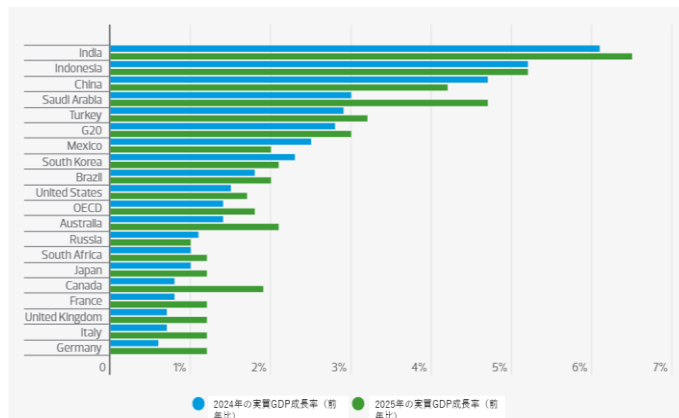


(出典) 国際通貨基金、Bloombergより、RSM US LLP作成

経済協力開発機構（OECD）は、金融引き締め政策が先進国経済の経済成長に及ぼす影響は長引いていると予測の中で指摘している。

OECDは、需要が減少し物価が安定すれば、中央銀行が徐々に緩和的なスタンスに移行すると予想に基づき、2025年のG20の成長率はわずかに上昇すると予測している。インド、インドネシア、中国は2025年も高水準の成長を維持すると予想され、米国は1.7%の成長が見込まれる。

### (2) 2024年と2025年のGDP成長率予測



(出典) OECDより、RSM US LLP作成

### III. まとめ

新型コロナウイルスのパンデミック後の回復が続く中、先進国経済の成長は持続可能なレベルに戻りつつある。

成長の中心は引き続きアジアであるが、主導権は中国からインドに移る。インドの成長は、近年の市場改革と、テクノロジーを促進する産業政策によるものである。

先進国のインフレ率は低下し、物価安定の水準に近づいている。各国とも、食料、エネルギー、住宅といった必需品のコスト上昇に直面しており、政治家、投資家、企業へのプレッシャーは増す一方である。

### 著者



ジョー・ブルセラス氏  
チーフエコノミスト  
[経歴の参照先](#)

当ニュースレターは、RSM US の英文ニュースレターの翻訳版です。日本語訳と原文（英文）に差異が生じた場合には、原文が優先されます。

記事の出典：

<https://rsmus.com/insights/economics/global-economic-outlook-asia-surges-and-the-west-normalizes.html>

ご質問等は下記までお願いいたします  
ウェブサイト：[rsm.global/japan/audit/contact](https://rsm.global/japan/audit/contact)